

持続可能な社会の実現に向け、

地域の可能性を引き出す学びをつくる

社会教育のあり方

報告の概要

1. 研究テーマ
2. サブテーマ
3. 地学協働について
4. 地学協働の3つのポイント
5. 持続可能なコミュニティ・スクールに向けて

報告の概要

1. 研究テーマ

2. サブテーマ

3. 地学協働について

4. 地学協働の3つのポイント

5. 持続可能なコミュニティ・スクールに向けて

1.研究テーマについて

持続可能な社会の実現に向け、

地域の可能性を引き出す学びをつくる

社会教育のあり方

報告の概要

1. 研究テーマ

2. サブテーマ

3. 地学協働について

4. 地学協働の3つのポイント

5. 持続可能なコミュニティ・スクールに向けて

2.サブテーマについて

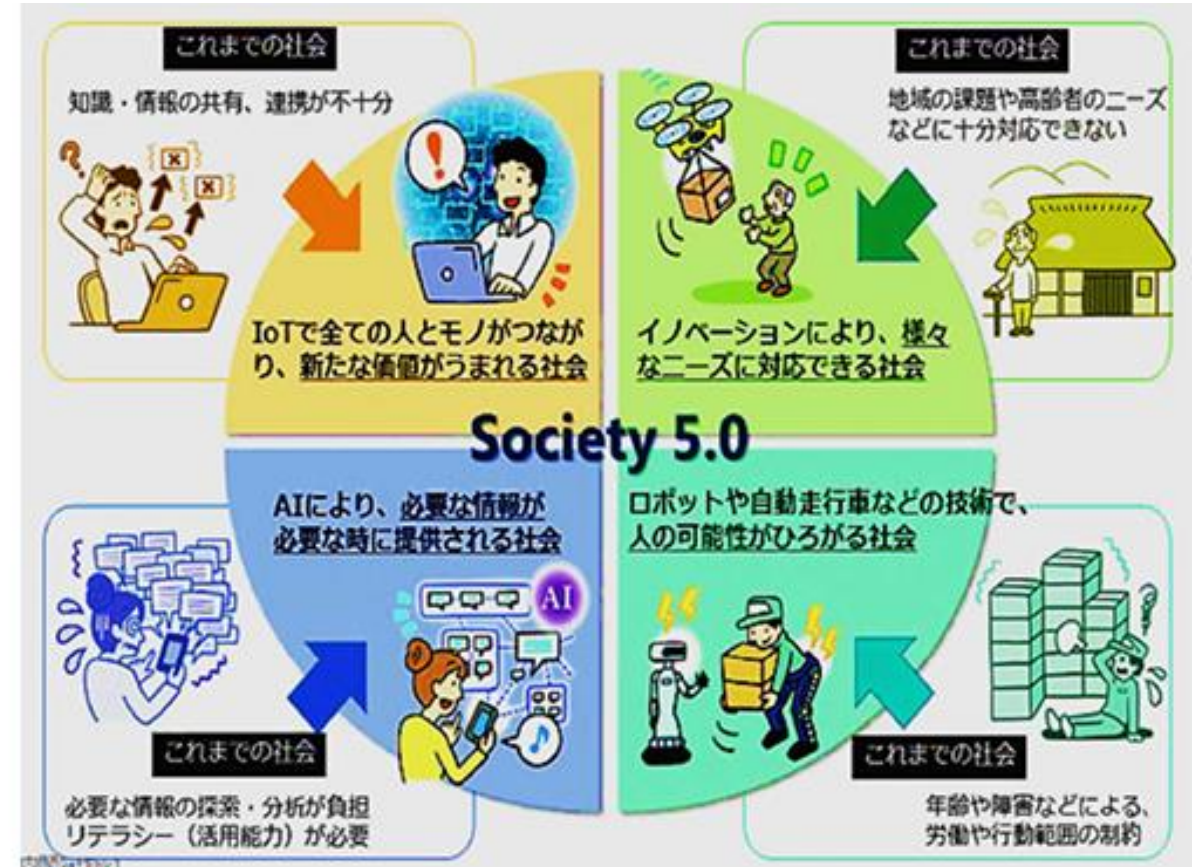
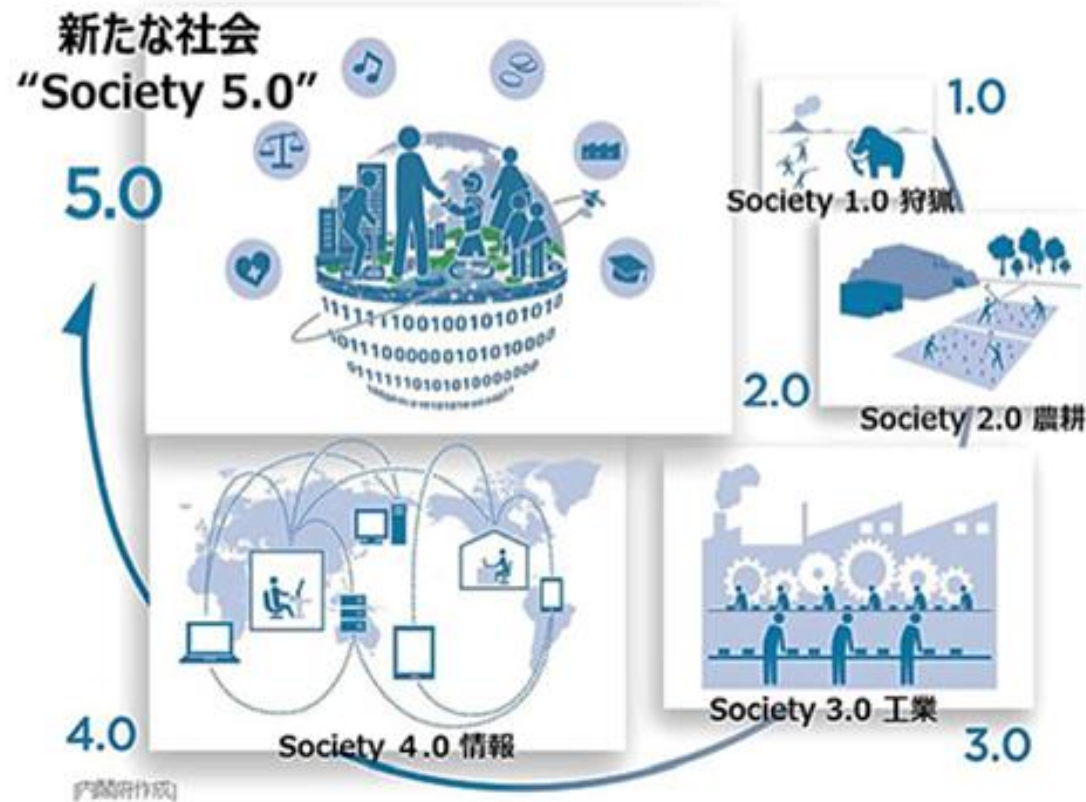
コミュニティ・スクールを通じた

地域学校協働活動の取り組みについて

報告の概要

1. 研究テーマ
2. サブテーマ
3. 地学協働について
4. 地学協働の3つのポイント
5. 持続可能なコミュニティ・スクールに向けて

3 - 1 .地域と学校の連携・協働の必要性



具体的には

コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）や地域学校協働活動の一体的推進が重要⁸

3-2. 地学協働のサイクル



「地域学校協働活動」に着目し、1年間、調査・研究を進めてきた。

3-3.調査・研究

◆ 後志管内社会教育担当者研修会（主事会主催）

- ・ 10分間講座「コミュニティ・スクールと地域づくり」

◆ 研修講座「学校と地域をつなぐ社会教育」（研修センター主催）

- ・ 地域学校協働活動における学校・地域・社会教育の役割
- ・ 地域学校協働活動における学校と社会教育の連携について
- ・ 各市町村・学校が抱えている地域・学校の連携における課題



7/20 管内研修会（共和町）の様子

◆ 各自治体での取り組み



11/10 CS交流会（寿都町）の様子

結果

①「社会教育担当者の役割」、②「コーディネーターの役割」、③「関係づくりと体制づくり」

報告の概要

1. 研究テーマ
2. サブテーマ
3. 地学協働について
4. 地学協働の3つのポイント
5. 持続可能なコミュニティ・スクールに向けて

4 - 1 .地学協働の 3 つのポイント

その1

社会教育担当者の役割

—喜茂別町の事例から考察—

喜茂別小学校 3～6年生

3年生 イトウの生態と保全について（オビラメの会）

4年生 きもべつの歴史（アスパラ、神社、学校）

5年生 きもべつの農業（JA、町内農家）

6年生 きもべつの福祉（町内福祉事業所）



鈴川小学校 3～6年生

3, 4年生 きもべつの歴史（アスパラ、学校）

3～6年生 蜂蜜ワークショップ



北海道実践的安全教育モデル構築事業について

今年度喜茂別町が採択を受け本事業を実施しており、学校運営協議会が運営の窓口となっている。

主な取り組みとして、は次のとおりとなる。

- ・交通安全教室
- ・自転車用ヘルメット貸付事業
- ・保護者向け研修会の開催
- ・夜光反射材付きキーホルダーの作成・配布
- ・その他交通安全に関すること

4 - 2 .地学協働の 3 つのポイント

その2

コーディネーターの役割

—寿都町の事例から考察—

地域学校協働活動推進のキーパーソン

学校のニーズや地域住民の思いを拾い集め、
地域住民の参加を得ながら活動へと結びつける人

地域を熟知



継続的な取り組みが可能に！



学校と地域をつなぐ



コーディネーターの種類

地域学校協働活動推進委員 (地域コーディネーター)

地域住民の中から、地域と学校の橋渡し役として活動する人を教育委員会が委嘱する。

公民館等社会教育職員 としてのコーディネーター

社会教育・生涯学習の拠点として地域住民等と学校をつなぐ活動が期待される。

教育委員会等職員としての コーディネーター

職員としての立場から、広く地域を意識しつつ、地域学校協働活動を進めることが期待される。

学校職員としての コーディネーター

学校事務職等、学校職員としての立場から、地域を理解して学校をつなぐことが期待される。

コーディネーターの仕事内容

仕事	内容
企画・立案 難	地域や学校の実情に合わせた地域学校協働活動の企画・立案
連絡・調整	学校や地域住民、民間企業・団体・機関等の関係者との連絡・調整
募集・確保	地域ボランティアの募集・確保・育成
事務・経理	地域学校協働本部の事務処理・経理処理
情報提供 要重	地域住民への情報提供・助言・活動促進

取り組みを価値づける

✓教育局への情報提供

✓報道機関への情報提供

✓学校内の掲示物

✓ホームページ、ブログ

✓学校だより、CSだより

✓目指す姿の共有



この日は、町産業振興課の西村尚絨係長らが講師として参加。生徒の観光プログラムについて助言した。西村係長は「地域の特徴を捉えた素晴らしい案ばかりで参考にしたい」と講評。発表を終えた男子生徒は「知らなかった寿都の良いところに気づくことができた」と話した。
(岩木由梨)



コーディネーターとの連携による効果①（学校評価アンケートの結果から）

R5 潮路小学校 前期学校評価結果の一部抜粋

P

◆学校は、地域の人材を活用した学習活動を進めるなど、コミュニティ・スクールを活用した学校運営に努めているか。（保護者アンケート）

R4 77% ※数値は達成率を示す

R5 94%

D

◆CSコーディネーターと連携し、地域の教育力を生かした体験的な学習[学習サポーターの活用]の充実を図っている（教員評価）

R4 87%

R5 92%

◆学校は、地域の自然や文化など、地域の良さを生かした体験的な学習を行っていると思うか。
（保護者アンケート）

R4 83%

R5 99%

CSコーディネーターと連携することで、学校運営協議会と地域学校協働の一体的推進が可能に！²¹

コーディネーターとの連携による効果②（聞き取り調査の結果）

○教職員の声

- ・ 継続した活動ができるようになった。
- ・ 授業の幅が広がった。
- ・ 深い学びや豊かな心の育成につながっている。
- ・ 他の仕事に専念できるようになった。



○学校支援ボランティアさんの声

- ・ 学校に協力しやすくなった。（学校への敷居が下がった）
- ・ モチベーションの維持につながっている。
- ・ 生きがいや自己実現につながっている。



4 - 3 .地学協働の 3 つのポイント

その3

関係づくりと体制づくり

—寿都町の事例から考察—

寿都町のコミュニティ・スクールと地域学校協働活動

○ 平成26（2014）年：コミュニティ・スクールを設置

教育方針の協議（学校運営協議会）



- ・ 目標やビジョンの共有
- ・ 目指す子ども像について熟議 など

教育活動の実践（地域学校協働活動）



- ・ 牡蠣の学習
- ・ サケの学習
- ・ ウニの学習
- ・ ホタテの学習 など

地域学校協働活動では、小・中学校合わせて例年、70本以上の授業に地域住民が参画

最近言われたこと

「地域人材の活用」の意味

○ 元宇都宮大学教授 廣瀬 隆人 先生

▼ 『小学校教育課程一般指導資料Ⅱ 地域の実態に即した教育課程』
(文科省 昭和57年) 「3 地域人材の活用」

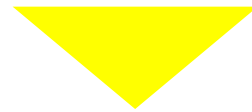
解 説 (一部要約)

- ・ 地域人材の活用の理念には、「交流」「協力関係」という語句が示すように地域社会との互恵的な協力関係、いわば「協働」が期待されているとみることができる。
- ・ 地域との互恵関係や地域住民の意思、学校・子どもに対する思いや心を大切にする必要がある。

大切なことを忘れていた



地域社会は、「助け合い」、「支え合い」で成り立っている



「ありがとう」という感謝の気持ち

「心」の関係は「支援」の関係を超える！

寿都小学校 6年生「出張音楽会」

詳しくは、配布資料を
ご覧ください！



大人：「いつまでも**応援**したい」、「また会いたいな〜」、「出会えたことに**感謝**」

応援



子ども：「あの時の**おばあちゃん**は元気かな？」、「普段の**感謝**の気持ちを届けたい」

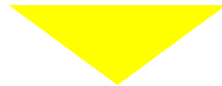
感謝

体制づくりについて①

佐々木 保孝 先生（天理大学人間学部 教授）

著書『地域学校協働のデザインとマネジメント』（共著） 26頁

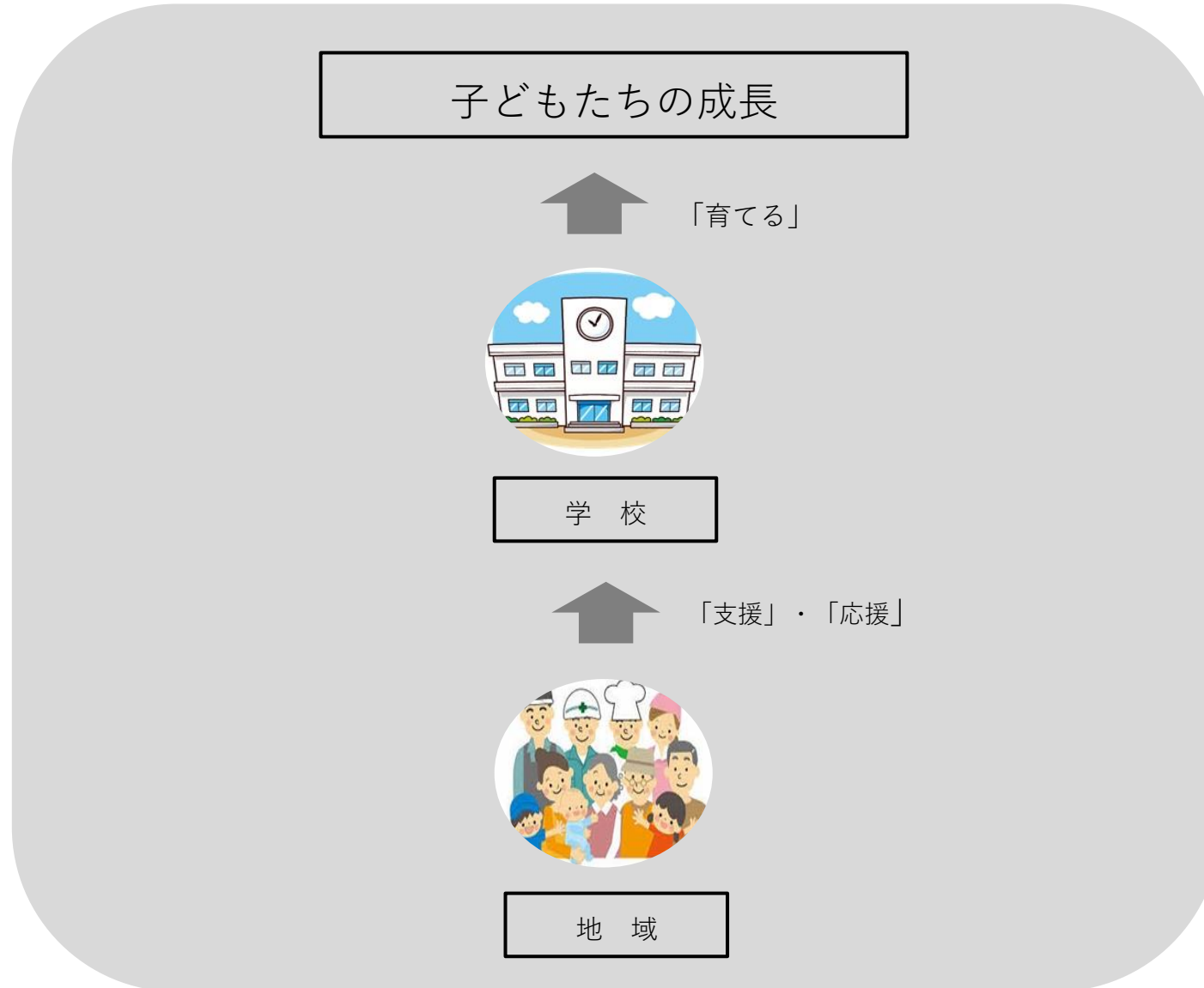
○学校の求めに応じて地域住民がボランティアとして学校のお手伝いをする
ということは、うがった見方をすれば、住民の労力を無償で学校に提供する
だけであるから、**ボランティアの数もいずれは頭打ちになるだろう。**



○学校支援ボランティアが盛んに活動する学校が地域づくり（地域再生）の
核になっていくよう、**学校から地域へ効果が向かうベクトルが強化されな
ければならない。**

体制づくりについて②

現在の体制



地域とともにある学校



学校を拠点とした地域

「学校づくり」と「地域づくり」の
好循環のサイクル

③ 学校を拠点とした地域

② 地域とともにある学校

① 地域に開かれた学校



子どもの成長



地域づくり

学校づくり



第1ステージ (H26年～)

第2ステージ (R5年～)

① 開かれた学校



② 地域とともにある学校

② 地域とともにある学校



③ 学校を拠点とした地域づくり

地域と学校でどんな地域づくりを目指す？

Part 1 「元気で豊かな地域づくり」 キーワード「子どもの元気」、「心の充実感」、「子どもとのふれあい」

寿都小学校 「遠足 ぐるっとすっつ」

子どもにとっては・・・



- ・地域の色々な人から、声をかけてもらったので、**励みになった。**
- ・寿都には**面白い場所があることが分かった。**

地域にとっては・・・



- ・子どもたちと触れ合うことができ、**元気をもらえた。**
- ・素敵な笑顔を見れて**心がハッピーになった。**

子どもたちと携わる方の声

「とても楽しかった」、「子どもたちの
笑顔がうれしかった」という声を聞く



子どもたちとの「つながり」ができるのも地
域でボランティアをする良さ



子どもたちから「面白かった」という声をかけて
もらえて、「すごく嬉しい気持ちになる」

地域と学校でどんな地域づくりを目指す？

Part 3 「子どもと一緒にふるさとづくり」 キーワード「子どもの社会参画」

小中校連携推進員会

ふるさとキャリア部会

「来年度から、全学校で実施予定」

学んだことを役場へ「提言」

子どもたちにとっては・・・



社会参画の場に！

役場にとっては・・・



まちづくりの
アイデアに！

地域と学校でどんな地域づくりを目指す？

Part 4 「まちの将来を見据えた人づくり」

キーワード「多様な人との出会い」、「興味」、「影響」

学校づくりは「ひとづくり」、人づくりは「地域づくり」

授業でお世話になった方の**影響**を受けて役場へ入庁しました！

今度は子どもたちを支える側に！

優しく教えてもらい嬉しかった！

こんな**面白い仕事**があるんですね！

嬉しいかぎりです！



要するに

学 校



地 域



①学校から地域への矢印



③「心」でつながっている関係



②より地域ぐるみで子どもたちの成長をバックアップ

報告の概要

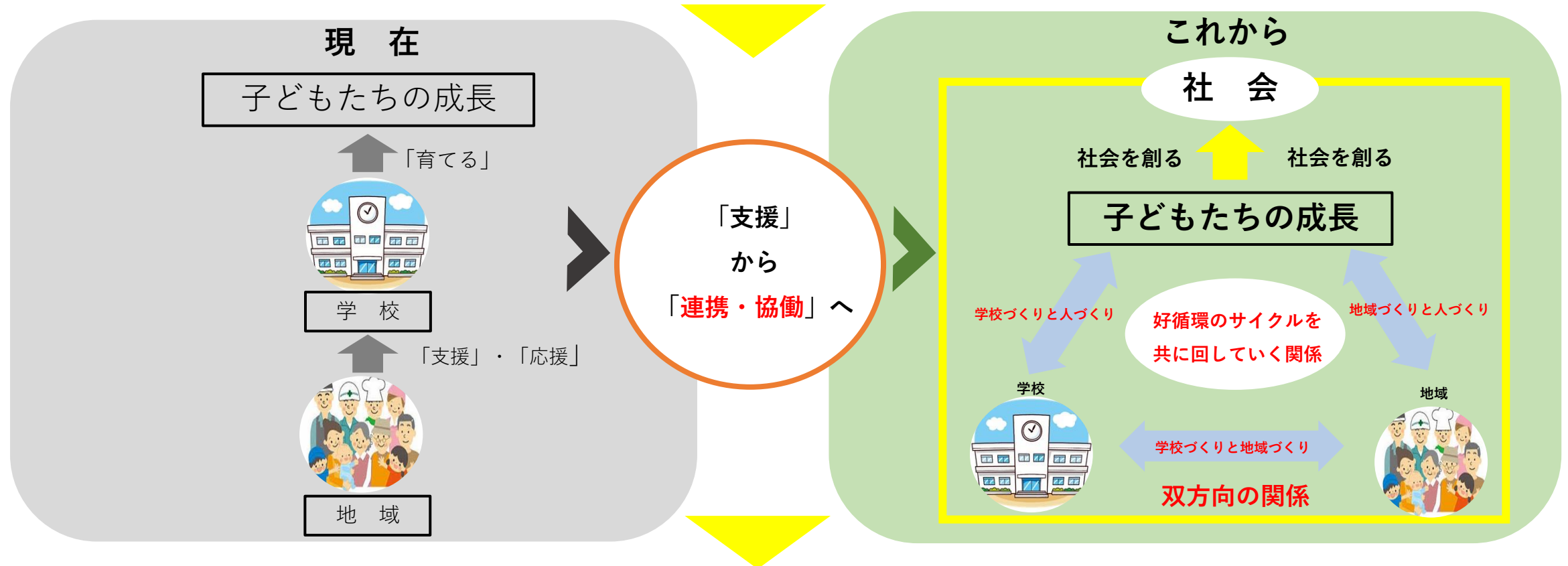
1. 研究テーマ
2. サブテーマ
3. 地学協働について
4. 地学協働の3つのポイント
5. 持続可能なコミュニティ・スクールに向けて

5.持続可能なコミュニティ・スクールに向けて

原点

- ・コミュニティ・スクールでは、学校運営協議会を通じて、**学校と地域の双方が発展することが目的**

玉井 康之先生『地域コミュニティと教育』71頁



学校を含めた社会全体を「豊かに」・「ハッピー」に！

ちょっとの意識を！

❌ 地域や学校に「行事」、「イベント」を増やす

❌ 取り組みの派手さ



「ふるさと教育」、「キャリア教育」「〇〇教育」etc・・・



今の取組に少しの付加価値を！

今後の調査・研究の方向性

①より具体的な調査・研究を進める

- ・地域住民や行政職員がコーディネーターを務めるメリットは何か？
- ・コーディネーターに必要な知識・技能は何か？

②情報の共有を図る

- ・各自治体へのアンケート調査
- ・アンケート結果の公表

③地学協働についての更なる理解の促進を図る

- ・社会教育関係者⇒学校教育の理解
- ・学校関係者 ⇒社会教育の理解